

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	人文社会科学探求1	
科目基礎情報							
科目番号		3M02		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		材料システム工学科(2017年度以降入学生、但し、令和4年度は材料工学科を含む)		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		藍澤 光晴					
到達目標							
①近・現代日本史の流れを理解できる。 ②現代日本を取り巻く諸問題の歴史的な背景を理解できる。 ③現代日本の置かれた立場を国際社会の観点から説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		現代日本の置かれた立場について歴史的な背景とともに説明できる。		日本の近代から現代にかけての歴史的な流れを説明できる。		近・現代日本史の歴史的な流れを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		第二次世界大戦からの世界の歴史について学習します。最終的に現代日本の抱えている問題について歴史的背景とともに考察し、これからの日本の展望について考えられるようにしましょう。					
授業の進め方・方法		講義は、基本的に座学中心であるが、映像資料等も適宜活用し、受講者には講義中に発言を必ず求めることもある。					
注意点		成績評価は、レポート（100%）の割合で算出する。60点以上が合格となる。 次回以降の授業範囲の専門用語の意味等を理解しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の進め方や成績評価について理解できる。		
		2週	二つの世界大戦		第一次世界大戦後半から戦争の形が変化したことについて理解できる。		
		3週	第二次世界大戦		第二次世界大戦について映像で理解する。		
		4週	国連の成立と機能① 国連の成立		国連の成立過程について理解できる。		
		5週	国連の成立と機能② 国連の役割		国連の役割について理解できる。		
		6週	東西連戦① 資本主義経済と共産主義経済		資本主義経済と共産主義経済の違いについて理解できる。		
		7週	東西冷戦② 冷戦構造の成立		東西冷戦構造成立について理解できる。		
		8週	東西冷戦③ 映像で見る冷戦構造の成立		ヤルタ会談に見る世界の分割について映像で理解する。		
	2ndQ	9週	東西冷戦④ 冷戦構造の激化		冷戦構造の激化の要因について理解できる。		
		10週	東西冷戦⑤ 米ソの停滞		米ソの経済的な停滞について理解できる。		
		11週	東西冷戦⑥ 映像でみる東西冷戦		東西冷戦構造下の世界の現状を映像で理解する。		
		12週	朝鮮戦争と日本経済		日本経済の発展の要因と朝鮮戦争との関係を理解できる。		
		13週	アメリカの停滞① ベトナム戦争と黒人問題		ベトナム戦争の勃発の過程、黒人問題について理解できる。		
		14週	アメリカの停滞② 映像で見るアメリカ		アメリカのベトナム戦争への介入と黒人問題について映像で理解する。		
		15週	冷戦とパラダイムシフト 脱冷戦後の課題		民族紛争などの地域紛争についての冷戦後の世界情勢を理解できる。		
		16週	エピローグ		まとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	前15
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。		3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。		3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。		3	

				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0